

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
この度、新たな検査項目の受託開始について、下記の通りご案内いたします。
健康と医療の未来に貢献すべく、より良い検査サービスのご提供に努めてまいります。
謹白

記

■ 受託開始日 2022年9月5日(月) ご依頼分より

■ 新規項目内容一覧

項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
ON08 5	曜日指定 Major BCR-ABL1 mRNA (%) 8C125-9962-019-875 8C125-9962-046-875	血液 (EDTA-2Na加) 7.0	PN7 (A)	冷蔵 (1日)	4~6	2520 ※2	RT-PCR (リアルタイムPCR)		重凍 裏面参照 &1
		骨髓液 1.0	H00 (H)						

※2：遺伝子関連・染色体検査判断料

< [6517 6] Major BCR-ABL1 mRNA (IS) [ON08 5] Major BCR-ABL1 mRNA (%) について >

- 受託数の増減により、所要日数が変わる場合がございます。あらかじめご了承ください。
- 慢性骨髄性白血病 (CML) には [6517 6] Major BCR-ABL1 mRNA (IS) をご依頼ください。
- フィラデルフィア染色体 (Ph) 陽性急性リンパ性白血病 (ALL) には [ON08 5] Major BCR-ABL1 mRNA (%) をご依頼ください。



● Major BCR-ABL1 mRNA (%)

フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病の診断補助・モニタリングに有用な検査です。

BCR-ABL1融合遺伝子は、9番染色体体長腕(9q34.1)に座位するABL1遺伝子と、22番染色体体長腕(22q11.2)に座位するBCR遺伝子の相互転座により形成され、相互転座により生じた異常22番染色体をフィラデルフィア染色体(Ph)と呼びます。

このBCR-ABL1融合遺伝子は、慢性骨髄性白血病(CML)に認められるだけでなく、急性リンパ性白血病(ALL)の約20%の症例においても認められます。BCR遺伝子切断点はMajor BCR、minor BCR、micro BCRがあり、Ph陽性ALLにおける割合は70%がminor BCR-ABL1、30%がMajor BCR-ABL1と報告されています。本検査はRT-PCR(リアルタイムPCR)法を用いて、Major BCR-ABL1の発現量を測定することでPh陽性ALLにおける診断の補助、および治療効果のモニタリングを行います。

▼疾患との関連

Ph陽性急性リンパ性白血病(Ph+ALL)

▼関連する主な検査項目

白血病キメラスクリーニング(定量)
Major BCR-ABL1 mRNA定量・定性

▼検査要項

検査項目名	曜日指定 Major BCR-ABL1 mRNA (%)	
項目コード	親: ON08 5 Major BCR-ABL1 mRNA (%) 子1: ON09 2 % MajorBCR-ABL1/ABL1 子2: ON10 2 MajorBCR-ABL1mRNA測定値 子3: ON11 0 ABL1mRNA測定値	
検体量	血液(EDTA-2Na加) 7.0 mL	骨髓液 1.0 mL
容器	PN7 (A) EDTA-2Na入り	H00 (H) 保存液入り
保存方法	冷蔵保存してください	
所要日数	4~6日	
検査方法	RT-PCR(リアルタイムPCR)	
基準値		
報告範囲(単位)	% MajorBCR-ABL1/ABL1 : 0.0007未満、0.0007~999.9999、計算不能、検出せず(%) MajorBCR-ABL1mRNA測定値 : 0.01~999999999、検出せず(コピー/テスト) ABL1mRNA測定値 : 0~999999999(コピー/テスト)	
桁数	% MajorBCR-ABL1/ABL1 : 有効7桁、整数3桁、小数4桁 MajorBCR-ABL1mRNA測定値 : 有効8桁、整数8桁、小数2桁 ABL1mRNA測定値 : 有効8桁、整数8桁、小数0桁	
検査実施料	2520点(「D006-3」BCR-ABL1「1」)	
判断料	100点(遺伝子関連・染色体検査判断料)	
備考	重 凍 凍結保存は避けてください。受託可能日は月~金曜日です。 検体採取後、速やかにご提出ください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 本検査は、e13a2及びe14a2の測定はできますが、e13a3又はe14a3の融合mRNAの測定はできません。また、e13a2及びe14a2の融合mRNAにおいてもプライマー及びプローブが結合する領域に変異がある場合には、Major BCR-ABL1 mRNAの測定ができないことがあります。	

&1

●参考文献

Nakamae H, et al : Int J Hematol 102 (3) : 304~311, 2015. (検査方法参考文献)

Branford S, et al : Blood 112 (8) : 3330~3338, 2008. (臨床的意義参考文献)